市川学園第三教育センター通信

実況中継「土曜講座」

第12号 2023年12月12日発行

市川学園12月2日の土曜講座 於 北館 1F 多目的ホール

丸山怜萌先生

「勝つための Diversity ―意識せざる特権と不条理の中で「自分」と「個性」を考える―」

EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 シニアマネージャー Women in Tech Japan Lead



丸山怜萌先生のご紹介

2008年 県立千葉高校 卒業

2012 年 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

2012年 投資銀行に入社

2017年 コンサルティングファームに転職。

2019 年 EYストラテジー・アンド・コンサルティング 入社

現職 テクノロジートランスファーメーション シニアマネージャー

Wimen in Tech 日本責任者

主な講義内容の紹介

2023 年内最後の土曜講座は、有名コンサルティングファームで管理職として活躍されている先生による「Diversity」(多様性) に関するお話でした、

近年、Diversity という単語を耳にする機会が増えてきました、性別、人種、障害など様々な観点で用いられる言葉ですがなぜ Diversity が必要だ・重要だと言われるのでしょうか。よく耳にするのは「差別はよくない」「マイノリティを保護しなければいけない」というような倫理的・社会的な観点から解決しなければならない課題として Diversity を捉えた言葉です。しかし、丸山先生は Diversity を「勝つ」ための手段だと仰いました。多様性のある(異物が入った)集団は、居心地が悪い一方で正解に辿り着く確立が高いという研究結果があることから多様性を確保するのは集団の成果を向上させるための手段となるのです。人間が物事を分類し、区別することは本能的な反応であり自然なことですが、それを理性や知性で補正することができるかどうかが分かれ目となるわけです。

勝つため、なりたい自分になるためにまずは無意識の中にある偏見を見つめてみてはどうでしょうか。

受講レポートから

・ 無意識に分類してしまうのはいけないことだと思っていたが、 それは本能でしょうがないということを知ることができた。私も 見えない枠組みにとらわれるだけでなく、自分のやりたいことを 見つけたい。自分の人生のために勝てるルールを作るということ がすごい響いた。これからは個性が求められる時代になって、自 分が生きるときにはもう少し女性が活躍できる時代になってほし いと思った。(中1女子)



- ・ 日頃から男女差別という言葉は聞きますが、今日のお話を聞いてその中でも日本は特にその差別が大きいものだと改めて感じました。また、具体例などを多く説明してもらってとてもわかりやすく、また 興味深いと思いました。日本のように周りの外的圧力も強く受けるような環境で、また実際に何度も認めてもらえない体験をしたのにも関わらず、あきらめないで努力し続けた丸山先生がとても凄いと思い、カッコイイなと感じました。(中2女子)
- ・ 私は「彼」と「彼女」という言葉にず一つと違和感を持っていました。「彼女」はまだしも「彼」はその一言だけで男性というイメージがあります。また英語においても「He」、「She」と She は S+He と「He」に付け足されていて、「man」と「woman」もそうです。本日の先生のお話を聞いてこの違和感や疑問が一気に解消されました。確かに今までの私の人生でアンコンシャスバイアスによって選択が決定されていたかもしれないと感じました。貴重なご講演ありがとうございました。(中3男子)
- マイノリティに対して覚える違和感が本能であることは想像もしていなかった。たとえば、スカート



をはいている男性を見かけたときに私は「あの人変わっているな」 と思ってしまう。マイノリティを排除しようとしているようで自 分が少し嫌だったが、これからはそれが本能だと受け入れて、仕 方がないとしたうえでダイバーシティを考えるようにしたい。今 までは意識していなかった違いをきちんと認識できるようになり たい。今、委員会で副部長という役職についているので、班分け をしていくときに、誰が優れているのか、すべてきちんとこなせ

る人を重視しようとしてしまっていたので、その人の個性を見て違いを大切にしたい。(高1女子)

- ・ 日本人が「同じ」を求める話での日本人は「違う」をwrong と訳し、アメリカ人は special などと訳すという話はとても興味深かったです。私たちが Diversity を求める本当の理由は差別をなくすためではなく勝ちを増やすため、なりたい自分になるためだということはこれからの人生で頭に残しておこうと思いました。なりたい自分になろうとするときに立ち止まってしまうときがあってもルール、枠組み、土俵を変え、なりたい自分が見つからないときは自分の世界の外を見てみることが大切なんだとわかりました。(高1女子)
- ・ 多様性にも慣れはあると思う、身の回りに日本で生まれたハーフ の方がいるが、今では全く違いを感じることはない。でもそれは特 異なもので、一般的に適応することでもないから、やはり差別のも ととなる点は本人がどうにかするしかないと理解できた。マイノリ ティを意識するときにマジョリティへの影響を懸念するのは、安定 を求める日本人の潜在意識が強く働くのだろう。(高2男子)



(文責:藤田 祐輔 先生)